

学びに向かう力 人間性等の涵養

・どのように社会・世界とかがわり、よりよい人生を送るか

文京区教育委員会 教育目標

「個が輝き共に生きる文京の教育」の実現を目指す

- 「心身ともに健やかで、自他を尊重し、人間性豊かにたくましく生きる人
- 自ら学び考え、表現し行動する人
- 社会の一員として広い視野をもち、日本の将来を担う人
- 地域を愛し、共に生きる社会を築く人

茗台中学校 教育目標

- ◎自ら考え、学習に励む人
- 思いやりと自主自立の心をもつ人
- 心も体もたくましく、進んで行動する人

育てたい生徒像

茗台中のすべての生徒と共に、仲良くし安心して生活ができる

- ・自分のやるべきことを見つけ、行動できる生徒
- ・楽しく学び、理解し身に付けることができる生徒
- ・自分を生かす場があり、成長できる生徒
- ・支え合い、認めてくれる仲間がいる生徒

保護者・地域とともに つくる

生徒がわくわくして 登校できる

迎える教員の姿

- 情熱あふれる教職員
- 人間性豊かで温かみを感じる教職員
- 使命感と信頼に満ちた教職員
- 自分を厳しく見つめ、他に思いやりをもてる教職員

みんなのわくわくを実現する学校

～生徒、教職員、保護者、地域が一体となった「チーム茗台」～

- 安心して安全な環境であり、何事にも生徒たちが中心になって取組み、互いに協力し信頼できる学校
- お互いを尊重しながらコミュニケーションを図り、笑顔で挨拶、声かけが進んでできる学校
- 地域との連携を密にし、協働し合いながら、生徒たちの成長が実感できる学校

活動する教員の姿

- 安心して過ごせる安全な学校
- 保護者、地域に開かれた学校
- 学校の様子がよく分かる学校
- 気軽に相談できる学校

【知・徳・体の調和の取れた 生徒の育成を目指した具体的な取組】

確かな学力の定着

- ①数学では習熟度別少人数授業、英語では習熟の程度を考慮した少人数授業に取り組み、理科ではチームティーチングを行う等、個に応じた指導の充実を図る。
- ②タブレット等のICT機器をより効果的、積極的に活用し情報活用能力の育成を図るとともに、協働学習を通して自分の学びと互いの学びを最大限に高め「わかる」「できる」を実感する授業の工夫を行う。
- ③朝の読書活動を実施し、読書習慣の定着と学力の基盤である読解力を培う。また、読書を通して体験の世界を広げ、豊かな人間性や情熱、感性を養う。
- ④基礎学力の定着を図るため、ベーシックスキルアップ学(4)を工夫し、目標時間内に10分間の「読書学習」を設定し、国語、数学、英語を中心としたドリル学習を行う。
- ⑤夏季休業日、放課後等に補充教室を実施し、各教科の基礎的・基本的な内容の定着を図る。
- ⑥外国語(英語)では、ALTの活用や生徒の能力に応じた英語検定への取組を通じ、興味・関心を高め、コミュニケーション能力の育成を図る。また、体験型英語学習施設(TOKYO GLOBAL GATEWAY)の活用を通して、英語を積極的に使おうとする態度の育成と外国の言語・文化理解を推進する。
- ⑦第1・2学年の理科では、理科教育推進事業による講師を活用して、個々の生徒に対応した指導を行うことにより、実験観察における内容や実験方法についての理解を深め、理解を定着させる。
- ⑧放課後に自主学習教室を開校し、学習習慣の定着を進め、個に応じた学習支援を行う。

豊かな人間性の育成

- ①「いのちと心の授業」やDVD教材「SOS」の出し方に関する教育を推進するための指導資料を活用して生命尊重の心を育てるための教育を推進する。
- ②「チャレンジタイム」を実施し、学び方や見方・考え方、自己の生き方等について考える態度や豊かな人間性の育成に努める。
- ③Hyper-QUテストを分析し、学校生活への適応、好ましい人間関係の形成、学業や進路等の選択などよりよく判断し自己決定できる能力を育む。
- ④「アサーションプログラム」を活用し、一人一人の生徒が生き生きと学校生活を送ることができるよう努める。
- ⑤いじめ防止対策推進法や文京区いじめ防止対策推進基本方針に基づいた本校いじめ防止基本方針に則り、いじめ、暴力行為、虐待の未然防止や早期対応等を行う。
- ⑥学級満足度向上モデル校としての取組を推進し、学校生活適応支援委員会を中心に、SCやSSW、文京区不登校対応チーム、学校サポートチーム、不登校支援文京区モデル等の活用、関係機関との連携を深め、不登校等の解消や生徒の問題行動等の早期発見、早期対応を目指す。
- ⑦キャリア教育を通してキャリア講座、職業講話、職場訪問、職場体験、上級学校訪問等を充実させ、計画的、組織的な進路指導を行う。
- ⑧キャリア教育の一環として「キャリアサポート」を活用して、学びの軌跡を残し、自分らしい生き方への実現の手立てとする。

開かれた学校づくり

- ①学校運営連絡協議会、学校関係者評価委員会、学校公開等を通して、本校の教育活動について理解を深め、学校評価を適正に実施・分析し教育活動の改善を図る。
- ②危機管理マニュアルの検証や改訂を行うとともに、学校防災宿泊体験の実施や防災「東京防災」を活用した防災教育の充実を努め、自ら危険を予測し回避し、地域社会の安全に貢献できる生徒を育成する。また近年多発する風水害に対しても身近にある危険と認識させ、災害時におけるべき行動を平時から身につけさせていく。
- ③道徳授業地区公開講座、学校公開、学校行事を通して、本校の教育活動を保護者・地域に公開するとともに、学校行事・学校便りの各種印刷物、学校WEBを活用し、広く情報を公開する。
- ④学校支援地域本部と連携し、学校の教育活動に地域の方を積極的に活用する。一方、こどもまつりやマラソン等地域行事への生徒の参加を促すよう活動の幅を広げていく。
- ⑤「SNS」東京ネット」を活用し、情報モラル教育の充実とインターネット・携帯電話による被害、加害に対する具体的な対策や方法について理解を深め、安全な利用を進める。
- ⑥学校安全の全体計画・年間指導計画の改善に努め、月1回の避難訓練や安全指導、防災宿泊体験やセーフティ教室、薬物乱用防止教室等を計画的に実施する。また、危機管理マニュアルや学校防災計画等の改善を図り、安全点検を実施して施設事故の未然防止を図る。

健康の増進と体力の向上

- ①がん教育を推進し、正しい理解と命の大切さ、自らの健康を適切に管理する力の育成に努める。
- ②オリンピック・パラリンピック教育年間指導計画に基づき、「ボランティアマインド」「障害者理解」「豊かな国際感覚」の育成のため、組織的・計画的に推進する。また、大会以降もレガシーとして伝統文化体験やボランティア活動、障害者理解、国際理解教育等を継続していく。
- ③食育推進委員会を中心に給食や家庭科、保健体育科等教科指導において、食に対する意識の向上と推進を図る。
- ④外部指導員を活用した武道・ダンス・保健授業の充実や、体カテストの結果を活用し運動能力の状況把握し、授業改善や学校行事、部活動に生かし、体力向上を図る。

幼小中連携

- ①保育園・幼稚園における「ふれあい体験」を通して、人間同士が協力し支え合うことの大切さや他の人を思いやる心の育成に努める。
- ②9月から11月の学校公開に合わせてオープンキャンパスを実施し、区内の小中学生を対象に学校説明会や授業体験、部活動体験等を行う。
- ③小日両町幼稚園でのボランティア活動や、後楽幼稚園を始めた保育園・幼稚園での保育体験、全盲小学校での学校紹介や運動会ボランティア活動、連携推進ブロックを活用して小学校との連携を意識した情報交換を行い、連携を深め、中1ギャップの未然防止に努める。

特別支援教育の充実

- ①インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育の充実を努めるため、学校生活支援シート「個別指導計画」の作成を行い、指導内容や指導方法の工夫改善を計画的・組織的に行うことにより個に応じた指導を推進する。また、校内研修を実施し、障害者差別解消法の趣旨を踏まえ、生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、必要に応じた合理的配慮を全校職員に周知徹底する。
- ②区中学校教育支援教室「アドバンスルーム」巡回指導教員の活用や特別支援教育担当指導員の活用により、特別な支援を必要とする生徒の不安や困難さの軽減を図る。
- ③特別支援教育コーディネーターを中心に学校生活適応支援委員会を週時間内に位置づけ、特別支援教育担当指導員や専門員との連携を通して特別支援教育を推進する。また、月1回(原則)の臨床発達心理士による巡回相談が行われた日は、拡大学校生活適応支援委員会を開き、情報の共有及び支援方法の検討を行う。
- ④特別支援教育専門家チーム、巡回相談等を活用し、理解の充実に努める。
- ⑤補給学級開校に伴い、文京区の「交流及び共同学習」ガイドラインに則り、生徒会活動や学校行事・部活動・朝読書・給食・清掃等の交流及び共同学習を通して、お互いを理解し合い、豊かな人間性を育むとともに、自立と社会奉還を見据えた学び合いの場とする。

知識・技能

○何を知っているのか何ができるか

思考力・判断力・表現力

○理解していること・できることをどう使うか